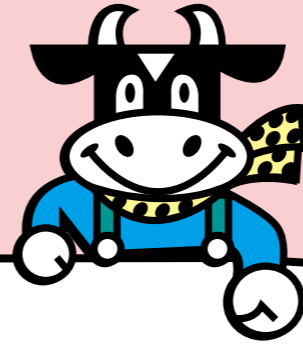




ワンポイント・アドバイス



知っていますか？ケトosis

牛が産後の食欲不振に陥って獣医師を呼んだ際、「ケト」という単語を一度は耳にされたことがあると思います。独特の臭いを発する牛や、パサパサの便をしている牛を見て、最初から「この牛、ケトじゃないかなあ」なんておっしゃる方もいます。ではこの「ケト」（正確にはケトosisですが）、どういった病気なのか皆さんご存知でしょうか？

ケトosisってどんな状態？

教科書を見ると、ケトosisは「体内のケトン体が増加し臨床症状を伴ったもの」とあります。ケトン体とは糖・脂質などが主に肝臓で代謝されて作られる物質で、健康な牛でも血液中に少量のケトン体が存在します。このケトン体が異常に増えると、食欲の減退、乳量の低下といった症状が現れますが、通常体温に変化はありません。歩く時にふらつく、興奮状態になる、大量によだれを流す、色々なものに噛み付く、といった神経症状が見られることもあります。

何でケトosisになるのか？

ケトosisの多くは分娩直後から泌乳最盛期に発生します。分娩すると泌乳が再開されるため、突然大量のエネルギーが必要となってきます。しかし、乾乳期には大きくなった子宮に押されて第一胃が小さくなっているため、分娩後にいきなりそれに見合うだけの餌を食べることは難しくなります。そうすると、牛はエネルギーの不足を補うため、体に蓄えた脂肪を分解して利用しようとして、分解された脂肪は血流に乗って、一旦肝臓に入り代謝されます。健康な牛ならば、その後エネルギーとなる物質（ブドウ糖等）の材料として利用されるはずなのですが、エネルギーが不足している状態の牛では、それらの物質を上手く作ることができません。また、牛の肝臓は元来脂肪の処理が下手なので、一度に大量の脂肪が肝臓に流れ込むと処理が追いつかなくなってしまう（太った牛がケトosisになりやすいのはこのためです）。

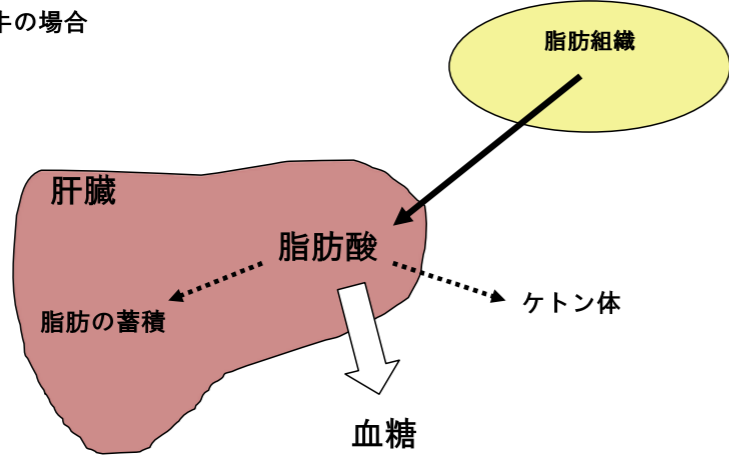
治療・予防のために

獣医師が行う治療としては、ブドウ糖液の点滴が一般的ですが、脂肪肝が重度でなければ、プロピレングリコールやグリセリンの内服でも十分な効果が得られます。もし他に食欲を減退させる疾患・

終わりに

分娩後のエネルギー不足の状態は全ての牛に起こることですが、だからと言って必ずケトosisになる訳ではありません。純粹に餌のエネルギーが少ない場合や酪酸発酵した餌を与えている場合にも起こりますが、他の病気が原因で食欲が低下すると、エネルギー不足の状態がより深刻になるため、ケトosisの状態に陥りやすくなります。実際ケトosisと診断する牛のほとんどが、低カルシウム血症、後産停滞、第四胃変位等の病気を伴っているように思われます。「この牛ケトかもなあ」と思った際には、他にどこか調子の悪いところが無いかよく観察してみると良いかも知れません。

健康な牛の場合



ケトosis牛の場合

